

項目	9 県立農林環境専門職大学のこれまでの成果と今後の取組について
答弁者	農林水産担当部長
質問要旨	<p>県立農林環境専門職大学は、高度な実践力と豊かな創造力を備えた将来のリーダーの養成を目指して令和2年4月に開学され、令和3年度に短大から、令和5年度に4年制大学から初の卒業生を送り出した。社会に羽ばたいた皆さんがどのように活躍されているのか気になっている。</p> <p>また農林業の未来を担う人材育成や、産業界や住民との連携による地域活性化など、地元からの大きな期待とともに、農林業分野では全国初の専門職大学として、全国からも注目されているのではないかと感じている。</p> <p>農林業を取り巻く環境は日々変化しており、先端技術の活用やグローバル化への対応などが、新たな農林業への転換と持続可能な社会の実現に欠かせない。こうした環境変化に対応するため、専門職大学への期待はますます高まっていると思う。</p> <p>専門職大学は開学5年目の節目を迎え鈴木知事による新たな県行政のかじ取りが始まったところで、大学にとっては、次のステップを目指す時期がきたのではないかと感じる。</p> <p>そこで、農林環境専門職大学のこれまでの成果と今後の取組について伺う。</p>

#### <答弁内容>

県立農林環境専門職大学のこれまでの成果と今後の取組についてお答えいたします。

農林環境専門職大学は開学以来、令和5年度までに269名が卒業し、多くの学生が農業法人をはじめとする農林業関係の企業へ就職しております。企業からは、「農場で中核的な存在となっており、管理を任せている。」など、企業が求めるスキルと在学中に身に付けた技能がマッチし、即戦力として活躍していると評価いただいております。

また、地域に貢献する開かれた大学を目指し、農林業者の経営発展を支援する社会人講座の開催や、地域企業との協働による県産レモンを使用したクラフトビールの開発など、地域社会との輪を広げているところであります。

今後は、変化する自然環境や社会情勢に即応できるよう、ICTを活用した生産環境モニタリングや環境制御方法、衛星測位システムを利用したドローンや無人トラクタなどのスマート農業技術の習得とともに、人材マネジメント講座や経営分析演習により、農業経営者としてのビジネススキルを磨く教育にも取り組んでまいります。

県といたしましては、これまでの成果を県内外に発信し、大学の認知度を更に高めるとともに、教育、研究、地域貢献などの取組を推進することで、本県農林業の発展に貢献する人材を養成してまいります。

以上であります。